

2021 年度の研究室の動向

2021 年 4 月に司城(H20)が福岡歯科大学総合医学講座内科学分野の助教として着任した。矢坂(S57)が九州医療センター脳血管・神経内科科長から同センター臨床研究推進部長に異動し、佐賀県医療センター好生館脳卒中センター長であった杉森(H1)が九州医療センター脳血管・神経内科科長に就任した。また三浦(H22)は新規開設された白十字リハビリテーション病院の回復期リハビリテーション科副部長に異動し、福岡歯科大学総合医学講座内科学分野助教の吉川(H21)はワシントン大学の del Zoppo 教授の研究室に留学して脳梗塞急性期の血液脳関門の病態を MRI をも用いた解析に着目した研究を開始した。1 名の新入研者があり、尾崎(H31)は九州医療センターで内科専攻医研修とともに脳血管障害に関する専門研修を開始した。そしてこれまで研究室に多大な貢献をしていただいた上床(H12)と牧原(H13)が研究室人事より離れ新たな道を進むこととなった。

脳梗塞超急性期の標準治療として rt-PA 静注また脳血管内カテーテルによる血栓除去療法が確立し、脳卒中・循環器病対策基本法が 2018 年 12 月に制定・2019 年 12 月に施行された。そして 2020 年 10 月に脳卒中・循環器病対策推進基本計画が閣議決定され、2021 年度には福岡県においても循環器病対策推進計画の策定が開始された。これらの計画では 1)脳卒中・循環器病の予防や正しい知識の普及啓発、2)保健、医療及び福祉に係るサービスの提供体制の充実、3)脳卒中・循環器病の研究推進の 3 つの目標を達成することで、健康寿命の延伸と脳卒中・循環器病の年齢調整死亡の減少を目指している。これらの目標達成に向けて今後も当研究室が果たす役割と責任は大きいと考えている。2021 年度も当研究室の多くの関連施設が一次脳卒中センター(primary stroke center: PSC)また血栓回収脳卒中センター(thrombectomy-capable stroke center: TSC)に準じた PSC コア施設に脳卒中学会から認定された。引き続き脳卒中後遺症が少しでも軽減できるように脳卒中の超急性期から回復期に至るまで診療に鋭意励んでいきたい。

さて、脳卒中発症後の神経重症度を軽減させるためには脳卒中の臨床病型や原因を的確に診断し、臨床病型や原因ごとに的確な治療を迅速に行う必要があるが、依然として脳卒中医療を専門とする医師はまだ足りておらず、諸施設からの脳卒中専門医の派遣依頼に十分に答えきれていないのが現状である。地域の脳卒中超急性期～急性期の医療体制の充実のためにも、脳卒中や神経救急疾患の診療を目指す若手医師の養成を、さらに脳神経血管内治療専門医(2021 年度:研究室内に 9 名在籍、研究室 OB 3 名)の養成をも継続している。また関連各施設では生活習慣病の診療を基本にして脳卒中発症・再発予防に力をいれているが、回復期リハビリテーションまた神

経・老年疾患など周辺領域の診療へも幅を広げて、認知症・てんかん・パーキンソン病などを始めとする神経疾患に対する診療体制をも整えつつある(2021 年度:リハビリテーション科専門医 6 名、神経内科専門医 24 名、老年科専門医 22 名、認知症専門医 8 名)。そして臨床業務が多忙な中、関連施設に出向中の若手メンバー(日高[H27])は英文で症例を報告している。

一方、研究面では福岡脳卒中データベース(Fukuoka Stroke Registry: FSR)を用いた臨床研究と、マウス脳虚血モデルや培養細胞を用いて組織学的・分子生物学手法による基礎研究を継続している。2007 年に開始した FSR には 2019 年 9 月末には前向き追跡として 17,000 超の症例が登録された。FSR での新規症例登録を 2019 年 9 月末でいったん中断したが、今後は FSR 登録症例の追跡とともに既存の FSR データと画像情報など他の臨床情報との融合や、「後ろ向き患者」の登録継続を行なっていきたい。FSR を用いた 2021 年の論文発表は 3 報(脇坂[H9]、入江[H14]、清原[H20])であるが、大学院生を中心に関連施設等への出向者も FSR データを用いて臨床疫学研究を継続している。また関連施設等での臨床研究をもとに若手・中堅メンバーは英文原著(東[H24][2 報]、徳永[H20][2 報]、桑城[H11]、緒方[H9])を報告した。そして基礎研究では、脳血管周皮細胞に中心とした neurovascular unit に関する研究や脳梗塞後の内因性組織修復と機能回復に関連する研究などを継続している。臨床研究と基礎研究を通じて、徐々に脳梗塞発症後の組織修復や機能回復のメカニズムの一端を見出してきている。臨床研究で清原(H20)が非糖尿病脳梗塞患者の急性期 β 細胞機能と臨床転帰 (Stroke 誌, 2021 年) の研究で第 27 回尾前賞を、また基礎研究では芝原(H23)が脳梗塞後の組織修復と機能回復におけるペリサイトとマクロファージの相互作用(Stroke 誌, 2020 年)の研究で第二内科同門会賞特別賞を受賞した。今後も臨床研究と基礎研究の双方の結果を融合し、山積している未解明の問題を解決して、将来的に脳梗塞後遺症を軽減しうる新規治療法の開発に結びつけていきたいと考えている。

(文責:脇坂義信)